

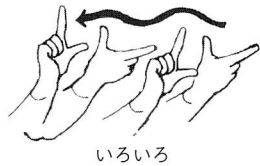
# 分科会「手話の歴史」

助言者：伊藤政雄／司会：中根清隆／記録：中根清隆

## ■手話の歴史について

手話の歴史について、その前に留意したいことに、手話の起源と語源とは意味が違います。ここでは、手話の起源すなわち手話の歴史について話してみたいと思います。日本の場合、手話は明治初期、聾学校の設立と同時に手話が生まれたのが多いが、明治時代以前の江戸時代にさかのぼって、昔も手話があったのかどうか、知りたくなります。

例えば「いろいろ」の手話は江戸時代、いろはカルタ遊びでカルタをめくるしぐさから生まれたようです。「男・女」も殿様が夜、人目を忍んで遊郭へ通い、バレないように芸者と秘かに話し合うことから生まれたようです。このような手話はろう者ではなく、案外聞こえる人から生まれたものが多いようです。皆さんが使っている手話の中に「IT」とか「インターネット」とか新しい手話もあれば、江戸時代の「いろいろ・男・女」というような昔の手話もあります。だから皆さんが使っている手話は、長い歴史を経て受け継がれてきたわけです。



いろいろ

さて、手話はいつどこで始まったのか、言葉同様に定かではありませんが、原始時代、言葉よりも早く手振り身振りコミュニケーションで始まったようで、人類学、歴史学から観れば手話の歴史は意外と古いと言ってよいでしょう。



## ■手話はろう者だけでない、歴史にさまざまなサイン(手話)があった

皆さんが手話は、ろう者だけものと思っているのは狭い考えです。今では手話を使うことに誇りや自信が持てるようになりましたよね。以前学校の先生はろうあ者が手話を使っていると、将来文字の読み書きが出来ない、口話の上手な人は良い、口話ができない手話だけの人は無知だと傷つけられ、皆さんの中にも苦しく口惜しい経験をされた記憶がありますね。昔の考え方は間違っていました。今は健聴者が手話を見てバカとは言えません。手話は立派な言語であると認めています。手話を認めるけれど、健聴者の自分達には手話の必要がないので、戸惑いを感じているだけです。

繰り返しになりますが、手話という言葉、皆さん手話というと「ろう者だけの言葉が手話」と思う人が多いようです。ろうの歴史を調べてみると必ずしも手話はろう者だけではなく、ずっと昔から健聴者も手話を使ってコミュニケーションしている事が多々あったようです。健聴者は話せるので手を使わないで喋るだけで、十分だと思えますね。しかし、健聴者同士が手を使って話す例(様子)を見たことがありますか？宗教の儀礼というセレモニーによく見られます。

宗教には、キリスト教や仏教などにセレモニー専用のジェスチャー(サイン)があって、簡単な例でいうと、クリスチャンのしぐさ(十字をきるしぐさ)もサインの一つです。あの十字をきるしぐさ 声を出さないでやったり、片足膝まづいてやったり、色々やり方はあると思いますが、どれもサインすなわち手話の一つです。

## ■生活に必要なサイン

生活に必要なサインがあります。私の知る範囲ではアフリカ、メキシコ、オーストラリアあたりで少し残っています。野球のサインみたいなものもあり、昔声を出してはいけない時があります。例えば野ウサギがいます。「おい！ウサギがいるぞ！」と声を出してしまつては、ウサギが人間の声を聞いて逃げていってしまいますね。そこで、仲間に「声はだすな！」「足音をたてる

な！」と合図しなければなりません。野ウサギに静かに近づいて仕留めなければなりません。その肉を食べて皆、生きなければなりませんよね。鹿や小動物を仕留めて食べて生きていく為、人間同士の連絡にサインが必要という訳です。

例えば向こうに動物のサイがいるとします。手話での表現は、人差し指を鍵状に少し曲げて上に向け、他の4指は握って小指側を鼻につけるものや、5指を鼻から滑らせるように前に出しながら握るものや表し方色々あると思いますが「サイが向こうにいる」と鼻に指文字「ヤ」の親指をくっつけて知らせます。昔の人の身ぶりとは表現は違いますが…。じゃあキリンは？指文字「キ」を高く上げるしぐさ「キリン、向こう」と指文字「キ」を高く上げ小刻みに揺らしもう方の手でキリンの位置を指差し離れた相手に知らせます。身ぶりで健聴者同士が手話(サイン)で表し、動物にそれぞれ近づいて行かなければなりません。一人だけで動物に近づいて行っても逃げられますよね？声を出したら動物に逃げられて、飢え死にしていまい困りますね。そういう意味でサインが必要だと分かってもらえたと思います。



インディアン

## ■北米のインディアン

そしてもう一つは、北米のインディアンですが、皆さん西部劇を映画で見たことがあると思います。映画で出るのは片手挙げたものや右手の拳を左胸につけたものや両手拳を交差し胸につけるものくらいですよ。でも詳しく検証するとサインが500位あります。インディアンは皆話せます。話せるのに何故身ぶり使う必要があるのか、想像出来ますか？ろう者には関係ありません。

インディアンのことが書かれてる色々な本が出ています。本を読んで覚えたと思うのですが、インディアンの部族と部族の言葉がそれぞれ違うので、会っても話が出来ません。それで手話(サイン)を使ったという訳です。インディアンの部族はあちこちあって、まとめると400以上あります。

映画で見るインディアンは、羽根をたくさん並べたものを頭から頬にかけて身に付けたものや眉間から鼻まで白くしたもの、頭に鉢巻状のもの巻いて羽根を1本だけ側頭部に着けたものいろいろです。一般的に見られるアメリカ映画では、インディアンが馬に乗って汽車を襲撃する場面、あれは作り話で映画でのインディアンのイメージが強いと思いますが、実際はインディアンというあちこちあって、更に部族ごとの言葉が違います。

インディアンは何語で話しているのか、インディアン語というのは一つだと思っていました。映画で見るアメリカのインディアンの言葉は、みんな同じだと思ったけど間違いでした。羽根の多い部族は、実際には一つだけです。広大なアメリカの中で一部族だけです。羽根が1本だけのはアパッチ族で、強くて有名です。映画の襲撃場面によく出てくるものですが、アパッチが汽車を襲撃する 汽車の乗客が窓を閉める 保安官がアパッチに応戦して銃撃戦になる 次第に汽車は脱線し、崖から落ちてバラバラになり、金品を奪われるという場面です。インディアンというと、この有名なアパッチ族が出てきますが、インディアンとアパッチは同じだと思わないでください。

例えばA・B・C・Dという部族があるとします。牛や馬を放牧していると、周辺の草を全部食べつくしてしまうので、朝早く移動します。辺りを見渡して緑の山を見つけますが、100km先遠いのです。ずーっと先なんです。

アメリカはとてつもなく広大なんです。日本は狭く小さくて、会って話するのも簡単に出来ます。しかし、アメリカはとてつもなく広く、日本とは大違いです。羽根を沢山つけた部族やそれを長く下まで垂らした部族もあります。羽根1本だけという部族もあります。色々な部族があり、数えると

全部で400位あるということが分かりました。A部族とB部族が会って話すのですが、声では通じません。身ぶりや手話(サイン)で表します。聞こえない人の手話も同じです。例えば「牛」ですが、両手指文字「ヤ」を両こめかみに親指をつけるしぐさをして向こうを手で示す。するとあゝ、向こうに牛の群れがあるんだと情報をいただき、代わりに川に魚がいることを両手をくねらせながら指先を前方に出していくしぐさで教えます。

このように言葉が通じない部族との間で身ぶり(サイン)が情報交換などに使われました。いつか本屋でインディアンのことが載ってるものを見つけ、必ず絵図で身ぶりが書かれているのを見て、ビックリして買って、へえーへえーと驚くかも知れません。このように健聴、ろうに関わらず手話(サイン)が使われていたことが分かりました。

## ■アフリカの砂漠

エジプト、エチオピアなど、海に面した都市では知識(教養)の高い人が多く、機械をつくる技術(力)もあり、文明が発達していますけれど、内陸は砂漠で車で行く事ができない、昔のままの狩猟が行われている状態です。砂漠で例えば、カメのサイン。キリンは指文字「キ」を前後に揺らす。象は握った拳を象の鼻のように動かす。

このようにサインも手話の一つで、手話をろう者だけのものという狭い考え方は間違いです。そこでも健聴者は、例えば牛を見つけてそれを獲ろうとする時、声を出しては逃げられるので、手でサインを送りあう必要があるのです。つまり皆さんは手話はろう者だけが使うものと思ってるようですが、それは間違いです。健聴者の中にも生活を営む上で(糧を得る上で)必要なことがあるのです。

## ■宗教のサイン

宗教セレモニーの十字をきるしぐさもサイン(手話)です。日本の場合は手をこすり合わせます。これもサインの一つです。手の合わせかたにも様々な方法があります。ナンマンダブナンマンダブとお経を唱えながら小さく両手を前後に動かすやり方、激しく振るやり方、手を合わせたまま頭の上や背中まで持っていきやり方、顔の左右で振ったりするの也有ります。宗派によって様々です。手を合わせる、この動きもサインの一つです。皆さんもごめんと言う時手を合わせますよね。片手でやる場合もありますが、この「拝む」しぐさも宗教上からきてます。宗教セレモニーサインが手話(サイン)が広まった一つのきっかけです。色々宗派によっても違います。



## ■競りのサイン

次に商売用のサインがあるのを知っていますか?健聴者が使っている手話(サイン)例えば競りで魚の仲買人と小売業者が値段の取り決めをします。声を出すと皆に聞かれてしまいます。声を出さずに横で手と手でやり取りする訳です。後ろ手でも合図しながら計算します。例えばトロ箱一杯が普通に買うと2000円だから2000円以上で買えば儲けがないうまく1600~1700円で買おうと思う。

値段が900円と値段が出てます。800円だったらすぐ買うのですが。例えば921円と声を出して言うと927円950円と値段がつりあがって困るので黙ってやります。もし、ろう者の場合なら数字が分かるので「ばかだなあ自分は927円で買う」という具合になります。見て分かってしまいますから更に値段がつりあがってしまいますよね。ですから分からないように独自の方法があります。つまり手首から肘の間の真中だといくらいくらといったようなやり方です。

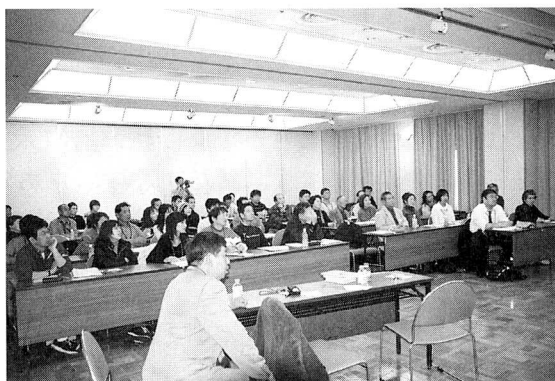
例えば左手掌は前方に向け胸の位置にもってきた場合を700円とします。そして手首と肘の間

の真中は750円と決めます。752円の場合は750円と決めた位置で2を当てて752とします。他にも鼻に人差し指を入れたり耳に人差し指入れたり親指を入れて動かしたりして、或いは股間に手をあててやるやり方でもいいんです。方法は様々です。

とにかく見て前と同じだと「あ～あの位置はいくらいくら」と分かってしまいますので変えていきます。例えば額で1、頬で2、顎で3とか或いは左の肩で4とか位置を変えていきながら5、6、7というように変えていきます。ですから関係者同志のサインを盗まれてしまっては損をします。声も出せませんし、競りの様子を伺いながら750、757、890、900、901円…最後に911円で決まり「持ってけー」となります。これが商売です。

声だけでやると、色んな人の声が混ざってこんがらかってしまいます。だから黙って身ぶり(サイン)だけでやる方が決まるのも早いです。身ぶり(サイン)の方がダントツ早いです。ろう者を見ると、すぐ分かるからあつと言う間に差が開いてしまいます。それで大儲けしてます。20万～30万儲けてますよ。皆さんは月の給料10万以上ですか？それが1日で20万～30万稼ぐんですよ。身ぶりの技術があればあるほど大儲けできるのです。身ぶりが遅い人はダメです。ゆっくりサインを出しては差が開き、損してしまいます。このように商売用のサインがあるわけです。また、ろう者の手話の決まりと商売の競りの手話(サイン)の決まりは違います。

ですから健聴者もあちこちで使っているから、皆さんもろう者だけが手話を使って、ジロジロ見られて恥ずかしいと思わないでください。健聴者も声を出して喋るのが、全ていいとは言えない場合もある訳です。



## ■株のサイン

例えば株を買うとき、電光掲示板がありますね。それを見ても全く分からないのですが、健聴者も株の売買の時に手話(サイン)を使うのがあります。ニューヨークの株取引の時もです。声を出して言ったら皆に分かってしまい大損をします。黙って手で数字を表して取引します。例えば1527円31銭の場合、手話で1527円31銭とやると思ったら違うのです。数字をバラバラにして混ぜ、1の場合は股間に手をやる、5は右胸に指を開いた左手をつける、2は右手で右頬を軽く叩く、7は右手で左肩を叩くというようにやります。皆さんが見てもわかりません。株の取引で股間に手をやったら1というように覚えて、次の日あつ股間に手をやったら1だと思ったら変わって7になっているのです。その時々で順番がころころ変わっていくのです。前に見たから股間に手をやるのは1だと思ってたら1でなく7だったり2だったり変わっていくのです。仕組みに慣れると頭で簡単に判断でき売買で儲けています。このような分野の得意があるのです。皆さんの手話の中にも得意があるのです。宗教手話もありますが、色々な手話にも目的があります。

日本の手話とアメリカの手話は違いますよね。アメリカの中でも違いますが、少し似てるところもあります。例えば簡単にいうと皆さんの知っている魚ですがアメリカでは右手手首に左手4指をつけくねらせ魚が泳ぐしぐさをします。あれは魚と理解出来ます。このように似た表し方もあります。日本には日本語があり、日本語に合わせて基本が決めてあります。アメリカの場合は英語に沿った手話を、日本では日本語に沿った手話です。皆さんも日本語に沿った手話で話さなければなりませんね。

## ■手話に対する見方

以前はろう者が手話を使っていると健聴者は随分バカにし、ろう者は苛められ、口惜しい思いをしたことがありましたね。昔ですよ。今は健聴者並みに手話で話せるくらい言葉は同じになりました。今はもう、テレビの中の小さい丸の中で手話通訳をやっているのが当たり前になってきました。以前は蔑まされ、バカにされ、石を投げられたり、口惜しい思いをしたことも記憶にあります。これはもう昔になりました。次第になくなり、今は石を投げられるようなことはありません。今は普通の子供が手話を見て、ろう者の言葉があるんだ、私もいつかは学びたい。私も大きくなったら手話を学びたいと思う子供が増えましたよね。今は時代が変わりました。

## ■手話の歴史の学び方

手話の歴史ですが、1回だけでは説明しきれません。資料も膨大な量になるし、もし皆さんが今日の講演でやって欲しいと言ったら100時間必要になります。細かくまとめられません。10通りにまとめたとしても、一つのまとめたものを詳しく説明すると10時間以上かかります。皆さんにいい加減に嘘を足してお話するようなことは出来ません。きちんと正しくお話ししなければなりません。文献もたくさんあります。

とにかく皆さん、これから少しずつ学習して分からなければ、誰かに教えてもらいながら知識を蓄積するのが早いです。話だけ聞いて「ああ分かった分かった」と思っているのはすぐ忘れてしまい、頭に何も残らないのでは意味がありません。話されたことを頭に入れ、書き留めたり、本を読んだりしなければなりません。私も皆さんと同じで講演でお話したあと、家に帰って本を読みます。本を読んでなるほど、まだまだだなあ、知らないこともあった「へえーなるほど」と本を読みます。そうやって楽しんでいます。私は毎日本を出して「あーこれはよく知ってるから読む必要ない」ということはしません。読んだ本でも順番に繰り返し読みます。皆さんの中には、本を買って読み終わったら、ただの紙として捨ててしまいますよね。私は何度も読み、噛み砕いて飲み込むようにします。これからはためた本を食べていこうと思います。美味しいですよ(笑)

大切なことは人に聞くという心の問題です。一度本を読んだだけで賢くなったつもりでは、すぐ忘れていくのでバカと同じです。それではダメです。本の流れ(内容)を噛み砕くようにして頭に蓄積すれば知識になります。本当だけと難しいところでもあるのです。本を読んで疑問に思ったところや分からないことは質問するというのが一番大切です。本当は分からないのだけれど、質問すると皆に見られるし、バカだと思われたら恥ずかしいから嫌だ黙って見てようとする人が居ますが、それは間違いです。それこそ本当のバカで最低です。自分をダメと思っただけではいけません。分からないことはどんどん聞く人が私は好きです。皆さんもそういう気持ちを持ってください。

それからこの分科会で学んで終わりではいけません。何もしないで学ぶだけではいけません。日頃それでもわからないことがあったら、それを温めておいて、来年の分科会にどんどん遠慮なく持ち出してください。手話の歴史の学び方とはそういうものです。

日本聾史学会は、歴史研究に関心あるろう者の集まりです。肩書き関係なく、気軽に話し合え、学びあう場です。来年もまた会いましょう。

※質問の時間は割愛させていただきました。